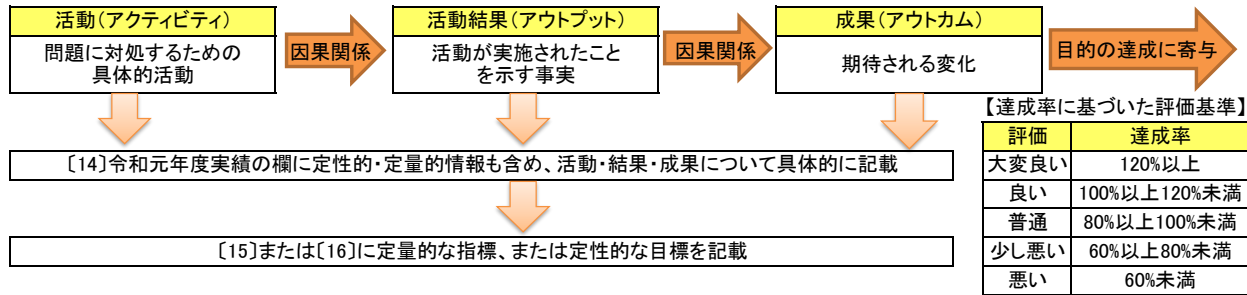


令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名 ひきこもり支援事業	シート番号 011-276
--------------------	------------------

Ⅳ. 評価(測定・分析)

ロジックモデルの考え方



事業の活動実績や成果

令和元年度実績								
活動実績と成果	14							
	15	指標名【活動指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		専門相談、教育研修、技術支援、普及啓発など各事業の実施回数	回	目標値				800
				実績値				
				達成率				
	評価							
	算出方法・設定根拠など		対市民、関係機関に対して実施したひきこもり支援の相談、技術支援などの回数					
	16	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		専門相談、教育研修、技術支援、普及啓発など各事業の利用者数	人	目標値				6,000
				実績値				
達成率								
評価								
算出方法・設定根拠など		対市民、関係機関に対して実施したひきこもり支援の相談、技術支援などの利用(参加)者の合計						

事業の効率性

17	区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	①		-	-	-
	②	千円	-	-	-
	③	円/単位			
備考(算出についての説明等)					
18	区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	①		-	-	-
	②	千円	-	-	-
	③	円/単位			
備考(算出についての説明等)					

業績の分析

19	目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 有効性は高いですか。低いですか。
- 効率性は向上していますか。
- RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありませんでしたか。
- ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

令和2年度 事務事業総点検シート(3)

事務事業名	ひきこもり支援事業	シート番号	011-276
-------	-----------	-------	---------

≪V. 点検≫

＜点検の前提＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の財政運営は今後一層厳しくなる
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立をめざす

○上記「点検の前提」を踏まえ、事業の抜本的な見直しを検討するもの。



<input checked="" type="checkbox"/>	確認
-------------------------------------	----

コロナ禍を踏まえた点検（必要性・有効性・効率性）	20	本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を廃止できないか。	事業廃止の可能性 <input type="checkbox"/> 廃止できる <input checked="" type="checkbox"/> 廃止できない	廃止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 ひきこもりに対する地域の相談先が無くなってしまう。
	21	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を休止(延期)できないか。	事業休止の可能性 <input type="checkbox"/> 休止(延期)できる <input checked="" type="checkbox"/> 休止(延期)できない	休止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 ひきこもりの高齢化や長期化は、早期介入による支援が有効であり、結果としてひきこもりからの回復が早まるものであり、休止や延期は悪影響を及ぼす。 休止の場合の再開時期 <input type="checkbox"/> 令和2年度中 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降
	22	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、事業規模を縮小するなど、コスト縮減を図ることができないか。	コストの縮減 <input type="checkbox"/> 一部廃止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 一部休止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 規模等を縮小しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 事業手法等を改善しコスト縮減できる <input checked="" type="checkbox"/> 縮減できない	縮減できる場合は具体的な縮減内容、できない場合はその理由 ひきこもり支援は、子ども青少年局と当センターが「ひきこもり地域支援センター」として事業を実施しており、当センターは8050問題に特化した支援に、令和2年度から実施することとなっているため縮減できない。
	23	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 社会経済活動の維持・回復のほか、3密を避けるなどの市民や民間の活動変容への対応に向け、実施手法を改善する必要がないか。	事業手法の適切性 <input type="checkbox"/> 改善する必要がある <input type="checkbox"/> 改善する必要がない <input checked="" type="checkbox"/> 既に対応できている	改善する場合は改善策、その他は理由 支援対象者がハイリスクな高齢者(ひきこもり者の親)であるため、感染予防対策として、相談面接にかかる時間および人数の制限、会場の消毒など、十分に配慮した対応をしている。
	24	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 効果的・効率的な事業の実施に向け、右に掲げる視点から改善できないか。	効果的・効率的な事業実施(以下の観点で、改善する(または改善済)場合は■、改善しない(改善余地がない場合を含む)場合は□) ① <input type="checkbox"/> 公民連携の推進 ② <input type="checkbox"/> ICT活用による効率化 ③ <input checked="" type="checkbox"/> 他部局との適切な連携・役割分担 関係部署名 子ども青少年局 関連事業名 ひきこもり地域支援センター ④ <input type="checkbox"/> 国・府等との適切な役割分担・連携 ⑤ <input type="checkbox"/> 他政令市等との比較におけるサービス水準の均衡 ⑥ <input type="checkbox"/> その他()	理由・説明 ひきこもり支援は、令和2年度から子ども青少年局と支援対象者を年齢で区分して相談を実施するため、市民にとっては相談機関が明確になり、相談機関としては、重複相談を防ぐことができるため、互いに専門性を活かした相談が実施できる。
25	これまでの点検を踏まえ、今後の事業のあり方についてどのように考えるか。	事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止または延期 <input type="checkbox"/> 事業を縮小 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状を継続 <input type="checkbox"/> 事業を拡充 公金投入の方向性 <input type="checkbox"/> ゼロ <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡大	実施年度 <input type="checkbox"/> 令和2年度 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降	
		所見 令和2年度から、若年層のひきこもり者の相談は子ども青少年局が主導して行い、こころの健康センターは、40歳以上のひきこもり者に特化した相談を行っている。多様な相談になることが予想されるため、今後とも専門性を活かした相談を実施していく。		